京都から「すぐそこ」来て！
「そこ滋賀」へ訪日観光客を誘客

訪日外国人観光客が集中する京都からJRを使えば約10分で湖国・大津へ。「すぐそこ」にある滋賀へ足を延ばしてみませんか、と滋賀県が誘客プロジェクト「そこ滋賀」を始めた。京都市下京区の京都タワー内にある、関西ツーリストインフォメーションセンター（KTIC）京都に観光情報の発信を委託。湖国のパンフレットをそろえ、滋賀の観光地で研修した案内スタッフが魅力をアピールしている。

年間の外国人延べ宿泊客数が約721万人の京都市に対し、滋賀は県全体で約34万人（2017年調べ）と20分の1にも満たない。これまで、認知度向上のため、海外での宣伝に力を入れてきたが、今年からは「すぐそこ（京都）まで来ている外国人に足を延ばしてもらおう」と、観光公害やオーバーツーリズムが問題化している京都からの誘客に力を注ぐ。

KTIC京都はJTBと京阪ホールディングスが共同運営する観光案内所。総勢6人のスタッフが英語や中国語で応対する。6月の「そこ滋賀」スタート時はスタッフが忍者姿になった。18種類の湖国観光パンフレットをそろえ、彦根城や竹生島、忍者の里・甲賀や信楽などの観光地を描いたイラストも設置した。

県とびわこビジターズビューローはスタッフ対象に、年間5回の現地研修を予定している。8月、米原市の醒井宿や彦根市の彦根城を訪れた鯉谷洋KTIC所長は「訪日外国人に人気のある馬籠や妻籠宿のような趣が残っている上、地蔵川に咲く梅花藻が気持ちを和ませてくれるので自然好きにもお勧めできる」と話す。京都から米原まで「ジャパン・レール・パス」を使えば、新幹線で約30分、在来線でも約1時間という「近さ」も好まれそうだ。

県観光交流局は「琵琶湖一周サイクリングロード『ビワイチ』を楽しもうとレンタサイクルを申し込む外国人観光客は確実に増えている。京都からの近さをSNSなどでもアピールしていきたい」としている。

京都新聞社　滋賀本社編集部長兼論説委員　松田規久子

忍者姿で応対するスタッフ
（2019年6月13日撮影　京都市下京区・関西ツーリストインフォメーションセンター京都　京都新聞社提供）

約20種類ある滋賀のパンフレット